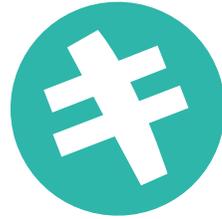
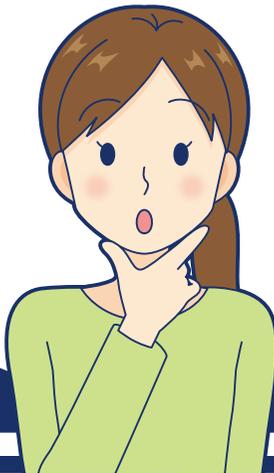


＼イチから分かる！／

デジタル教科書 キホンのキ



よく聞くカタカナ語の解説から活用アイデアまで
デジタル教科書に関することを幅広くご説明します。

日文のWebサイト

日文 🔍



※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。



心が動く、その先へ。

日本文教出版

「まず使ってみて」って言われても・・・。
 なにができるかどうできるかもよくわからないし、
 ICT 機器やサービスは日進月歩だし、画面は小さいし。
 そんな時、この冊子を開いてみてください。
 今更聞けないような当たり前のことを詰め込んでお届けしています。
 これってこういうことなんだ、
 こんな使い方もできるんだ、
 とりあえず〇〇から始めてみようかな。
 そう思っただけなら、望外のよろこびです。

心が動く、その先へ。
日本文教出版

目次

知識編	1
活用アイデア編	21

- ・ Windows、Microsoft Edge、Excel は、マイクロソフト企業グループの商標または登録商標です。
- ・ iOS、Safari は、Apple Inc. の商標または登録商標です。
- ・ Google、ChromeOS、Google Chrome、Google スプレッドシートは、Google LLC の商標または登録商標です。

※その他、本パンフレットに記載されている商品またはサービスなどの名称は、各社の登録商標または商標です。本パンフレットの本文中では ™、® マーク等は明記していません。

知識編

知識編では、デジタル教科書まわりの基本情報や頻出キーワードについて解説するとともに、デジタル教科書のこれまでの歩みやこれからの展望をご紹介します。



GIGA スクール構想の歩みを振り返る	2
環境整備に伴い、提供されるサービスも豊富＆多彩に	4
活用促進に向けて学校現場での実証研究や導入も加速	6
学習 e ポータルとの連携もスタート	7
3 種類のデジタル教科書	8
利用方法はクラウド配信が主流に	9
日文のデジタル教科書 商品ラインナップ	10
イメージでつかむデジタル教科書の設定	11
くわしい設定方法、使い方はコチラ	14
これからのデジタル教科書	15
ICT 教育 近年の注目キーワード	16
「キ」ホン用語集	17

GIGA スクール構想の歩みを振り返る

GIGA スクール構想提唱当時は、教育 ICT 環境の実現を目指し、1 人 1 台端末と高速大容量通信ネットワークを一体的に整備するという、設備面の議論が行われました。当初 2023 年度末までに端末配布を完了させる予定でしたが、コロナ禍で計画を前倒し。急ピッチで整備が進み、2024 年には学習者用デジタル教科書が本格導入されるまでに至りました。



参考：文部科学省「教育の情報化・GIGA スクール構想の推進」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm

環境整備に伴い、 提供されるサービスも豊富&多彩に

教室で利用される電子黒板などの設備も大きく進化していますが、ここでは ICT 端末とインターネットを活用する製品・サービスに焦点を当てて、一例をご紹介します。

校務を支援する製品・サービスの例

- 学籍・成績管理システム
- 採点支援システム
- 勤怠管理システム
- 保護者との連絡ツール など

授業で使える製品・サービスの例

- 教科書 QR コンテンツ
- デジタル教科書
- 学習管理システム (LMS)
- デジタルドリル
- クラスのコミュニケーションを支えるプラットフォーム
チャットツール、オンラインストレージ、オンライン会議システムなど
- 協働学習支援ツール
資料・教材の配布や画面の共有ができるサービスなど

／ 上でご紹介したサービスのいくつかが
1 つにまとまった製品・サービスもあります。 ／



子どもたちの情報活用能力を高めていくには、先生方が、**校務を行う中で感じている「ICT ってちょっと便利だな」という体験**を、授業の中で少しずつ共有していくのもいいかもしれません。

特別なことをする必要はなく、たとえば「こんなふうに使えばちょっと楽になるよ」という実感を子どもたちと分かち合うことが、自然な ICT 活用につながっていくのではないのでしょうか。



まずはこんなところから

先生同士が
チャットで情報共有

子ども同士でも
チャットを使わせてみる

(同じ班以外の子ども同士の意見交換など)

先生同士で作成した
資料を相互参照する

子どもの考えを相互参照させる

(ワークシートなど)

表計算ソフトで
情報を処理する

調べ学習などで
表計算ソフトを使わせてみる

(手計算を省いて試行錯誤の回数を増やすなど)

活用促進に向けて 学校現場での実証研究や導入も加速

GIGA スクール構想では、環境整備と並行して活用促進のための施策も行われています。学習者用デジタル教科書も数年にわたって実証研究が実施されてきました。

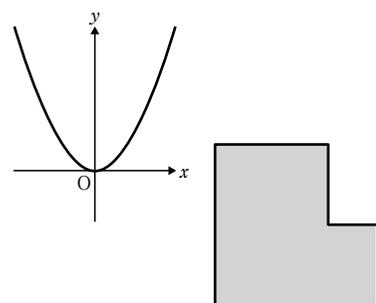
令和7年度時点の学習者用デジタル教科書導入状況



英語

ネイティブの発音を確認できることなどからデジタルとの親和性が高いと言われている英語科。

令和6年度から、全ての小中学校等を対象に小学校5年生から中学校3年生に対して提供が始まっています。



算数・数学

英語の次に導入を予定されているのが算数・数学です。令和7年度は、一部の小中学校等を対象に小学校5年生から中学校3年生に対して提供されています。

デジタル教科書以外にも、以下のようなキーワードに対して、実証研究・活用促進が進められています。

- 例)
- ・文部科学省 CBT システム (MEXCBT)
 - ・最先端技術 (生成 AI、メタバースなど)
 - ・教育データの利活用 ・校務 DX など



学習 e ポータルとの連携もスタート

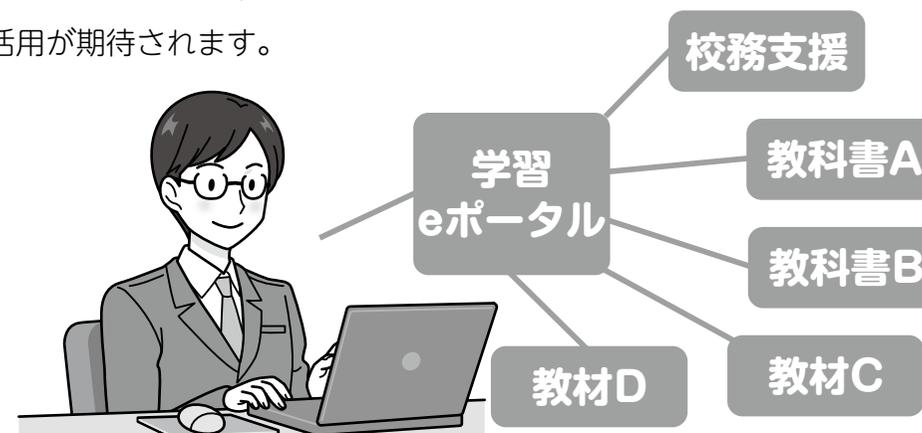
令和7年度、一部の学習 e ポータルとデジタル教科書の連携が始まろうとしています。

今はまだ、教材ごとに設定やログインが必要



面倒な設定やログインの手続きを1か所に集約

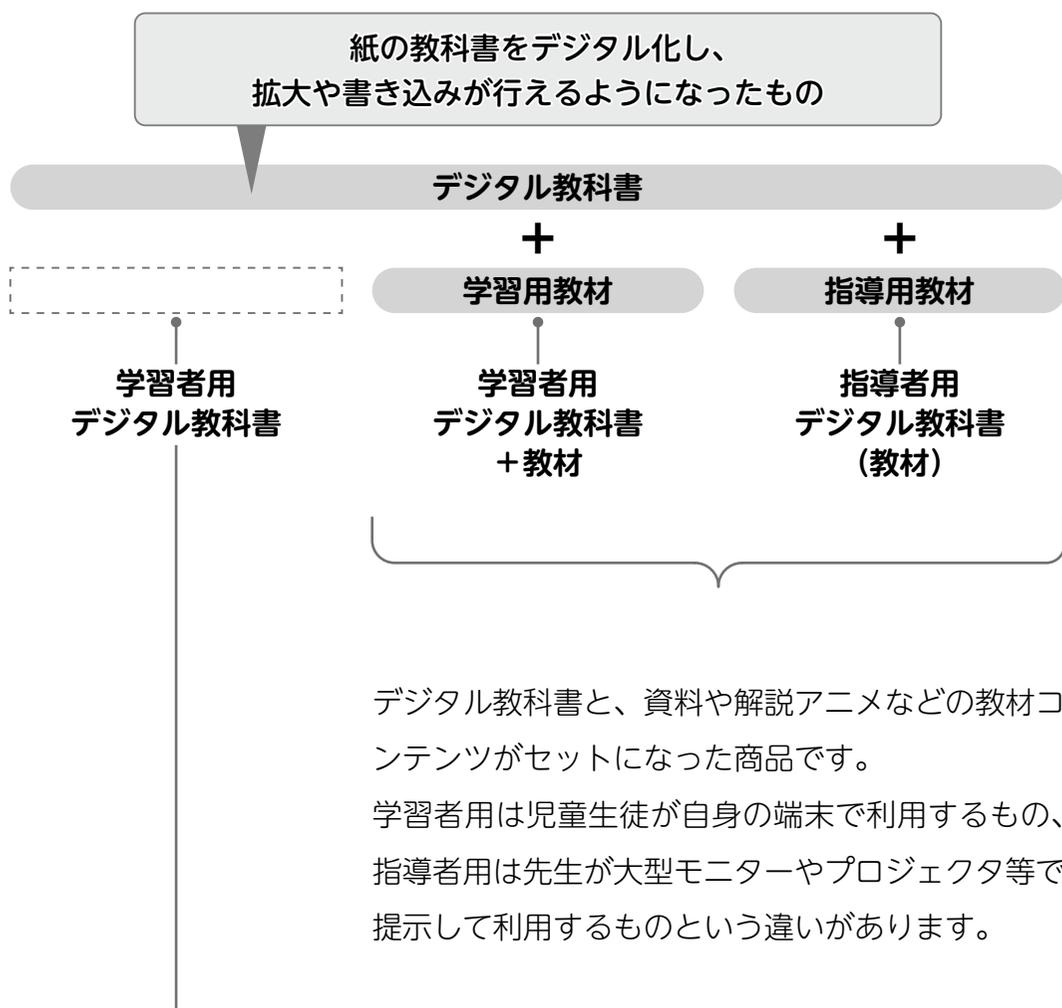
学習 e ポータルをひとつの玄関にして、あらゆるシステムへシームレスにつながる、そんな教育環境の実現を目指しています。連携が進めば、各サービスで蓄積された児童生徒の学習データもひとつのデータベースで一元管理できるようになり、より効率的なデータの利活用が期待されます。



ただ、各サービスにはそれぞれに適した独自の仕様や運用方法があり、これらを1つの仕組みに統一するのは容易ではありません。実現に向けて、日々調整が続いています。

3種類のデジタル教科書

一口に「デジタル教科書」と言っても、実は3種類存在することをご存じでしょうか？ 児童生徒用が2種類と、先生用が1種類です。

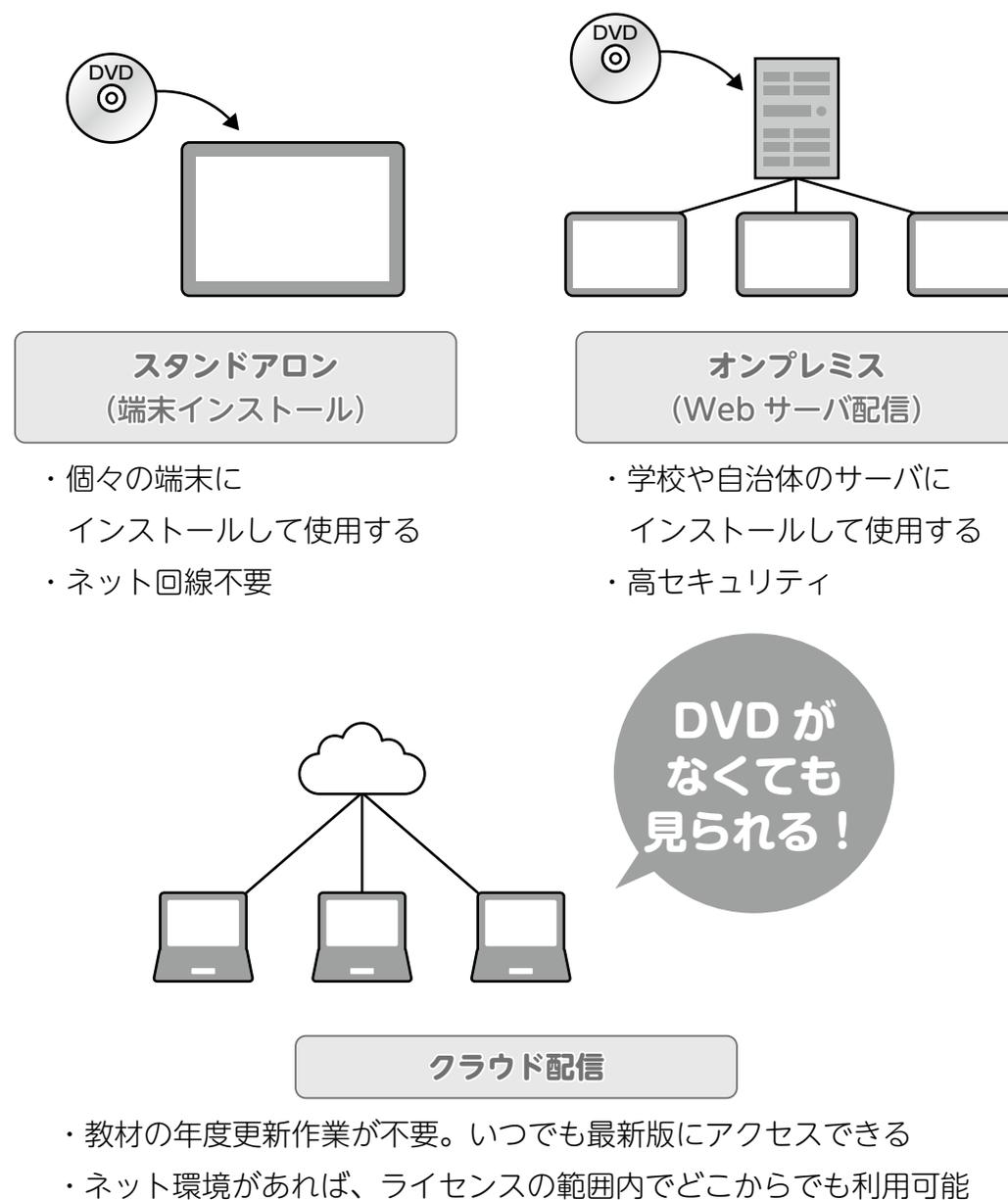


学習者用デジタル教科書には、原則、紙の教科書プラスαの教材は搭載されていません。

ただし、紙の教科書からもアクセス可能な教科書 QR コンテンツは、学習者用デジタル教科書にも搭載できます。二次元コードを読み取る必要がある紙の教科書と異なり、ワンタッチで起動できます。

利用方法はクラウド配信が主流に

以前は、デジタル教科書を利用するには、DVD のデータを個々の端末または学校・自治体のサーバにインストールするのがスタンダードでした。しかし、学校のネットワーク環境が整備されて以降は、ネット環境があればどこでも教科書を閲覧できる「クラウド配信」が主流となっています。家庭などで映像作品を視聴する際に、DVD ではなく配信サービスを利用するのが一般的になったのと似ています。



令和6年度版小学校・令和7年度版中学校 日文のデジタル教科書 商品ラインナップ

「○」が付いた商品は単体販売を行っています。
 価格情報や商品詳細はサポートサイトをご確認ください。



小学校向け

	指導者用 デジタル教科書 (教材)	学習者用 デジタル教科書	学習者用 デジタル教科書+教材
小学社会	○	○	○
小学算数	○	○	○
図画工作	指導書セットに同梱	○	○
小学道徳	指導書セットに同梱	○	

中学校向け

	指導者用 デジタル教科書 (教材)	学習者用 デジタル教科書	学習者用 デジタル教科書+教材
中学社会 地理的分野	指導書セットに同梱 単年版は単体販売あり	○	○
中学社会 歴史的分野	指導書セットに同梱 単年版は単体販売あり	○	○
中学社会 公民的分野	指導書セットに同梱 単年版は単体販売あり	○	○
中学数学	指導書セットに同梱 単年版は単体販売あり	○	○
中学美術	指導書セットに同梱	○	
中学道徳	指導書セットに同梱	○	

イメージでつかむデジタル教科書の設定



イメージでつかむデジタル教科書の設定

やっと名前を書き終えた！

この真っ白なライセンス（通行証）に利用者を紐づける作業が、「ユーザー登録」や「ライセンス割り当て」と言われるものです。

ちょっと手順が多いのですが…全体の流れはシンプルです！

具体的な手順は教科書（発行者）によって異なりますが、ここでは日文を例にご説明します！

STEP ①
まずは作業をするための「事務所」に入る必要があります。

STEP ②
通行証を渡す相手の「ロッカー」を設置します。

事務所の鍵
||
管理者ID、パスワード

ロッカー設置
||
ユーザーアカウントの登録

「鍵」のお届け方法は右ページ上の囲みの2パターンです。

事務所の倉庫には、同じ建物（みらスク）に入っている違う会社の通行証も一緒に置いてあります。

ライセンスが1つだと通行証に名前を書いて渡すイメージですが…

複数ある場合は個人用ロッカーを作り、通行証を収納しておくというイメージが分かりやすいですね。

みらスク 管理事務所

日文商品A, X社商品C, Y社商品E, 日文商品B, X社商品D

日文では「事務所の鍵」（管理者ID、パスワード）のお届け方法は2通り

主に「クーポン」を利用する商品

一部の指導者用デジタル教科書や学習者用デジタル教科書など

「日文アカウントシステム」に登録し各サービスの「鍵」の情報を取得

「通行証」であるライセンスの書類に「鍵」の情報を記載

教科によっては日文独自のサービスもありますので、日文アカウントシステムへのご登録をおすすめします。

STEP ③
「引換券」で新たな「通行証」を受け取ります。

STEP ④
個々の通行証を誰に渡すかを決めてロッカーに格納していきます。

引換券を通行証に交換
||
クーポンコードの登録

ロッカー内に通行証を置く
||
ユーザーへのライセンス割り当て

新たな通行証

〇〇さんには5年算数と5年社会を…

- ・日文アカウントシステムへの登録※
- ・「みらスク」管理画面に入る
- ・利用者を登録する
- ・クーポンを登録する
- ・教材ライセンスと利用者を紐づける

※必要に応じて

まとめると重要なのはこの5つ！

くわしい設定方法、使い方はコチラ

設定方法【セットアップガイド】

デジタル教科書や指導書が届いてから使い始めるまでの設定方法のマニュアルです。

ほぼ全ての商品にこちらの冊子が入っていますので是非ご参照ください。

デジタル版は「日本文教出版デジタル教科書サポートサイト」からご覧いただけます。



https://www.nichibun-g.co.jp/digital_support3/support/manual/

商品別の機能説明【コンテンツガイド】

サポートサイトの各種マニュアルには機能&使い方ガイドがあります。

こちらはデータのみでのご提供となりますが、各商品別に機能や使い方の説明をしておりますので、是非ご参照ください。

また、同ページ下部には指導書同梱の「指導者用デジタル教科書（教材）」などについての紹介動画をご用意しています。

90秒程度で概要をつかんでいただけるものとなっていますので、是非ご覧ください。

デジタル教科書右下のヘルプボタンからもリンクしています。

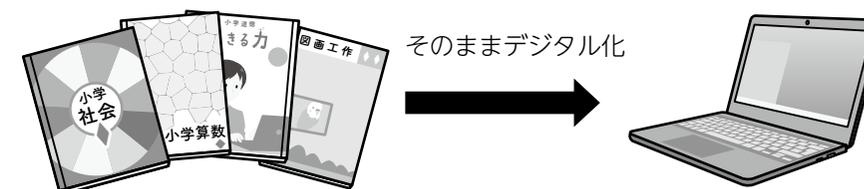


これからのデジタル教科書

2025年現在、学習指導要領改訂の議論と並行して、デジタル教科書のあり方についても積極的な議論が交わされています。

現状

デジタル教科書は、紙の教科書の内容の全部をそのままデジタル化した、教科書に代えて使用できる「教科書代替教材」教科書ではないため、**使用義務や検定・採択・無償給与等の対象外。**



今後

新しい教科書の形態として「紙」「デジタル」のほか、一部が紙、一部がデジタルで構成された「ハイブリッド」が提案されている。

「紙の教科書の内容をそのままデジタル化したものでなければならぬ」などの制約を外し、紙とデジタル、双方の良さを生かした教科書・教育のあり方を模索していく。



文部科学省のデジタル教科書推進ワーキンググループが発表した中間まとめでは、「児童生徒の学びをより充実させるには、紙・デジタル・リアルを適切に組み合わせることが重要」と提言されました。

今後は、教科書に限らず、紙かデジタルかといった「二項対立」の陥穽に陥ることなく、どちらの良さも考慮し、学校や児童生徒の実態等に応じて適切に取り入れていく、としています。

ICT 教育 近年の注目キーワード

生成 AI

生成 AI の登場により、文章を要約する、簡単なコードを書く、イラストを作成するといったことが、誰でも簡単に行えるようになりました。

また、生成 AI は技術進歩のスピードも目覚ましいものがあり、数年先の未来を想像することをも困難にしています。AI の存在が当たり前になった未来を生きていく子どもたちに必要な学びとはどのようなものなのか、活発な議論が交わされています。

文部科学省は「初等中等教育における生成 AI の利用に関するガイドライン」を公表しており、教育現場での活用に向けた方向性が示されています。



インクルーシブ教育

障害の有無や国籍、使用する言語などにかかわらず、すべての子どもが共に学ぶことをめざすインクルーシブ教育。ICT 端末の普及や外国にルーツのある児童生徒の増加を背景に、近年ますます注目が高まっています。デジタル教科書に搭載されている読み上げ機能や総ルビ表示、白黒反転機能はまさに、インクルーシブ教育の実現に向けた工夫のひとつです。



機械音声による
読み上げ機能付き

教育データ活用

ICT 端末の普及とともに、出欠や学習履歴といったデータが蓄積されるようになりました。これらを指導の参考や校務負担の軽減に繋げるべく、検討が進められています。こうした教育データの活用と、従来からの先生方による見取りがバランスをとって補完し合うことが大切です。

「キ」ホン用語集

BYOD (Bring Your Own Device)

児童生徒が家庭で使っているタブレットやパソコンを学校に持参して学習に使う仕組みです。GIGA 端末の補充策として注目されています。

DX(デジタルトランスフォーメーション)

デジタル技術を活用して、より効率的で創造的な働き方を実現することを意味します。教育分野では、教材のデジタル化や業務の自動化を通じて、学びの質向上や教職員の負担軽減につなげていくことが期待されています。

ICT

インフォメーション & コミュニケーションテクノロジー (情報通信技術) の略で、パソコンやインターネットなどを活用し、情報を扱ったり伝えたりする技術全般を指します。「IT (インフォメーションテクノロジー)」と似ていますが、ICT には「コミュニケーション (通信)」が含まれることから、「端末を使ってデータをやり取りする」という側面を強調する場面でより使われる傾向にあります。

OS(オペレーティングシステム)

GIGA 端末においては、Windows、iOS、ChromeOS が代表例です。端末を「人」だとすると、OS は「脳」のような存在です。端末に指示を出したり、動きを制御したりする役割を担っています。

Society 5.0

日本政府が提唱する未来社会の姿です。狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く新たな社会として提唱されました。IoT、AI、ロボット、ビッグデータなどの技術で社会課題を解決し、経済発展と個人の幸せを両立する社会を目指しています。

SSO (シングルサインオン)

あるサービスのアカウントを、別のアカウントと紐づけることで、ログインの手間を減らすしくみが「SSO」です。たとえば、デジタル教科書のアカウントを Google のアカウントと紐づけている場合、Google にログインしていれば、デジタル教科書アカウントの ID・パスワードを入力しなくてもログインできるようになります。

アカウント

何かしらのサービスを使う際、メールアドレスやユーザー ID、パスワードなどを登録することがしばしばあるかと思います。こうした「あなたを識別するための情報セット」がアカウントです。アカウントを登録することで、あなただけの専用ページを持つことなどができます。

オンラインストレージ

ストレージ (storage) とは倉庫のことです。オンラインストレージは、インターネット上のデータ倉庫。自分のパソコン (デスクトップなど) に保存するのと同じように、インターネット上にもファイルをしまっておけるのです。

インターネットに繋がっている環境であれば、いつでもどこでも、端末を変えてもアクセスできます。

保存できる容量などの違いで有償・無償のサービスがあり、利用者専用のアカウントでログインして利用することが多いです。

クラウド

サービスを利用する際にソフトウェアをインストールするのではなく、インターネットを介して利用する形態を「クラウド」と言います。オンラインストレージも「クラウドサービス」の一種です。

サーバ

誰かの要求に応じてデータを送ったりするコンピュータのことです。たとえば、オンライン上にあるデジタル教材の動画を見ようとするとき、あなたの要求に応じてその動画を送ってくれるのがサーバです。

Web ページの情報を提供する Web サーバ、電子メールの送受信を管理するメールサーバ、データやアプリケーションをクラウド上で提供するクラウドサーバなどがあります。

デジタル教科書

広義では「指導者用」「学習者用」「学習者用」などの種別がありますが、2025 年度時点では紙の教科書と同じ内容をタブレットなどで利用できるようにしたものを指すことが多くなっています。拡大・書き込み・読み上げといった機能を備えていることが一般的です。

デジタル教科書ビューア

デジタル教科書を利用するためのサービスのことを「デジタル教科書ビューア」といいます。日文のデジタル教科書は、富士ソフト株式会社の「みらいスクールプラットフォーム (通称みらスク)」というビューアで見ることができます。

デジタル教科書ビューアは、みらスク以外にも、さまざまなサービスが存在します。どのサービスを採用しているかは教科書会社によって異なりますので、「うちの教科書はどのサービスで見られるの?」と気になった場合は、各発行者にお問い合わせください。

デジタル教材

パソコンやタブレットで利用できる教材です。動画・音声・クイズなど様々なコンテンツを通じて学びを深めることができます。教科書にあるQRコンテンツもデジタル教材の一種です。デジタル教科書とデジタル教材が一体になった商品（指導者用デジタル教科書（教材）や学習者用デジタル教科書+教材）もあります。

ブラウザ

インターネット上のページやサービスを表示するアプリです。Google Chrome や Microsoft Edge、Safari などが代表例です。デジタル教材や学習管理システムなどの多くはブラウザ経由で使用します。

ライセンス

ソフトやサービスを使うための「利用許可」のことです。デジタル教科書やデジタルドリルなどの商品は、ライセンスを購入・取得することで使えるようになるのが一般的です。ライセンスには、「〇人まで使える」「〇年間使える」など、使える人数や期間に決まりがあります。

日文商品の場合、ライセンスを取得する方法は次の2種類があります。

①指導書セットに同梱されている商品の場合：指導書セットに入っている「クーポンコード」をお客様ご自身で入力していただくことで、ライセンスを取得できます。

②それ以外の商品の場合：ご注文内容に応じて当社が発行しております。発行時には「ライセンス証」という文書でお知らせをいたします。



活用 アイデア編



活用アイデア編では、日文のデジタル教材の紹介を交えながら、ICT 端末の活用アイデアをお伝えします。

また、よくある現場課題について、デジタルシティズンシップの第一人者である豊福先生にお話を伺いました。

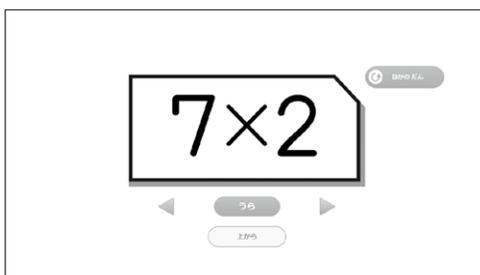
その内容についても、後半のページでご紹介いたします。

活用アイデア①～④	22
<教科別> 日文のデジタルコンテンツを一部ご紹介	25
サポートサイト「活用事例」ページのご紹介	28
よくある現場課題	29

活用アイデア ①

まずは提示から始めてみる

指導者用デジタル教科書（教材）はもちろん、教科書 QR コンテンツの中にも、提示に使えるコンテンツを豊富にご用意しています。解説に使うほか、簡単なクイズ教材で復習を兼ねたウォーミングアップを行う、技法動画を前で投影しながら先生は机間指導を行う、といった使い方も考えられます。



活用アイデア ②

提示するかわりに、
児童生徒自身の端末で閲覧させてみる

児童生徒一人ひとりが、個々の苦手な部分を自由に繰り返し視聴し、理解を深めることができます。



動画の視聴などを宿題にして、授業では応用問題に取り組んだり、学んだことについて発表し合う、反転授業の場面でも活用できます。

活用アイデア ③

先生が便利だと思う使い方を
児童生徒にも提案してみる

例 1



実技や実験をカメラ機能を使って撮影・記録して、いつでも見返せるようにする。

例 2



調べ学習において Excel や Google スプレッドシートといった表計算ソフトを使わせてみる。

例 3



記録した動画や、試行錯誤に使った資料はオンラインストレージにアップロードして、相互参照できるようにする。

例 4



「授業のまとめ」や「わかったこと」を、表計算ソフトやアンケートフォームを使って提出させてみる。

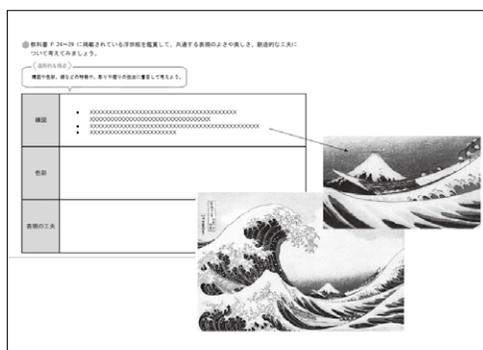
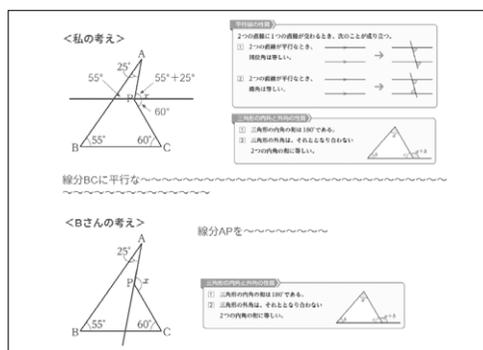
今後も、生成 AI を筆頭に様々なテクノロジーが教育現場に登場してくると予想されます。こうした新技術を授業でどう使うか悩まれた際は、先生自身がどこに利便性を感じているのか、その利便性を児童生徒と共有するにはどうすればよいのか、という視点で考えてみるのもひとつの手ではないでしょうか。

活用アイデア 4

児童生徒自身の考えを主体的にまとめさせる

児童生徒に自身の考えを整理・表現させる際、デジタル端末を活用すれば、図や表を使いながらまとめることが容易になります。

教育機関の設置者(教育委員会や学校法人)が授業目的公衆送信補償金を支払っている場合は、デジタル教科書のスクリーンショットも画像素材として、授業内で利用することが可能です。



調べ学習はもちろん、算数・数学、図工・美術などの教科でも、デジタルワークシートやシミュレーションコンテンツを活用しつつ、生徒それぞれの気づきや感じたことをまとめる活動が広がっています。

授業目的公衆送信補償金制度について

授業目的公衆送信補償金制度は、授業においてICTをより活発・円滑に活用できるよう、著作物を許諾なく利用できる代わりに、補償金を支払うことで著作権者の権利を守る制度です。

制度の詳細や申請方法、申請済み教育機関の一覧は、SARTRAS(授業目的公衆送信補償金等管理協会)のウェブサイトで公開されています。
<https://sartras.or.jp/>



- ※ 当ページに記載している内容は、改正著作権法第35条の改訂等に応じて、変更される場合があります。
- ※ 利用条件や利用範囲の詳細は、教科書発行者ごとに異なります。実際の利用にあたっては、各発行者の方針や指針を確認することをおすすめします。

<教科別>

日文のデジタルコンテンツを一部ご紹介

社会

授業に役立つ動画を多数収録しています。地図、グラフの凡例別表示コンテンツなどが好評です。

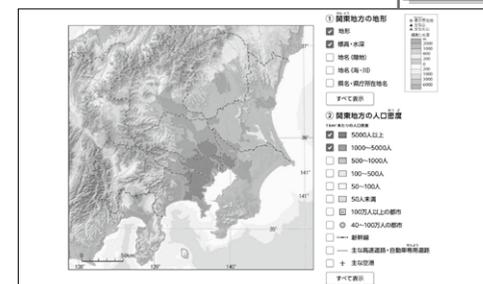


授業の導入向け動画や、教科書紙面上に登場する人が話す動画などを収録しています。

NHK for Schoolへのリンクもたくさんご用意しました。

小社

地理



地図やグラフ上の要素を凡例別に表示・非表示を切り替える、凡例別表示コンテンツも多数収録しています。

資料を読み取る力を育てます。

公民



学習上の重要トピックについて、スライドショーで説明するコンテンツも収録しています。

学習者が自分のペースで学習を進めることができます。

小社



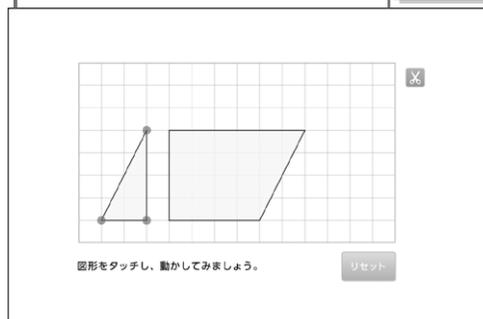
学習者が操作しながら学ぶシミュレーションコンテンツ。

考えることを促し、基礎的・基本的な知識の定着を助けます。

算数

フラッシュカード、図形を動かしてみるシミュレーションなどがよく使われています。他に解説アニメや作図動画なども。

算数



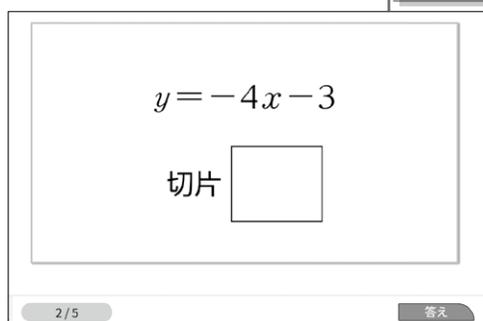
図形を自由に切ったり動かしたりして試行錯誤し、さらに子どもたち同士で考え方を見せあって共有できるので、協働的な学びにつながります。

算数



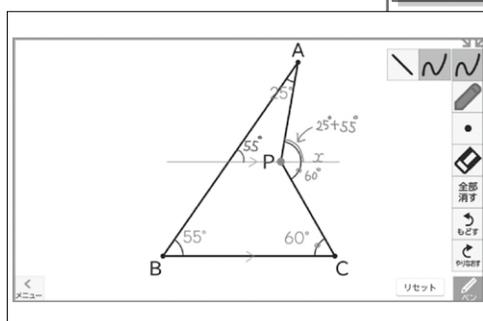
図形をしきつめる活動を、端末上でもできるようにしました。子どもは活動の本質に注力でき、準備の時間も削減できます。

数学



授業のはじめにフラッシュカードでウォーミングアップ。問題がランダムに出題されるので、飽きずに繰り返し取り組むことができ、知識・技能の定着が図れます。

数学



生徒がインタラクティブに操作をすることで統合的・発展的に思考を深めることができます。デジタルですのでペンツールでの書いて消してが容易。より試行錯誤に時間をかけることができます。

教科や発行者によって様々な工夫されたデジタルコンテンツが用意されていますので、お使いの教科書で是非お気に入りのコンテンツを見つけてください。



図工美術

創造性を育むための動画を多数収録。「図画工作」では自分の思いを表現するための材料用具の使い方動画を「美術」では作品の見方が深まる作家・作品解説動画を収録しています。

図工



安全指導にこだわった「材料用具の使い方」動画。紙面だけでは理解しにくい子どもにも、動画だと分かりやすい。使い方を理解することで、より自分の思いを表現しやすくなります。

美術

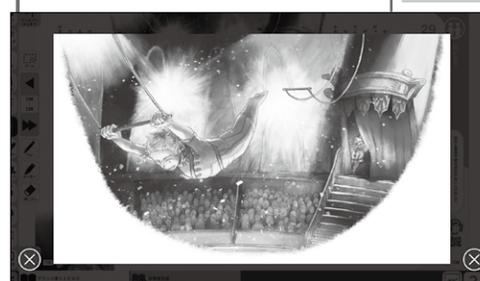


鑑賞活動に役立つ作家・作品解説動画を豊富に掲載しています。作家のインタビューや作品を描ききっかけになった出来事など掘り下げながら作者が作品に込めた想いに迫ります。

道徳

朗読音声の再生や挿絵・写真などの拡大表示がよく使われています。他には心情メーターやシンキングツールなども。

小・中



教材の挿絵や発問などを拡大して表示することで、児童生徒の意識を集中させることができます。(挿絵・場面絵などの画像データは小学道徳は「どうぐ」ボタンから、中学道徳は目次からアクセスできます。)

小・中



心情メーターで登場人物や自分の考えや気持ちを表し、言語化することでお互いの考え・気持ちを理解していきます。(心情メーターは2025年夏ごろに共有機能を実装予定です。)

サポートサイトでは 教科ごとに指導案をご紹介します

日文のデジタル教科書サポートサイトの「活用事例」ページではさまざまな指導案をご紹介します。

https://www.nichibun-g.co.jp/digital_support3/case/



また、ICTを取り扱った
機関連誌の情報をまとめたページもございます。
こちら是非、併せてご覧ください。

https://www.nichibun-g.co.jp/ict-use/education_s/



よくある現場課題

活用はしたいけど、一方でデジタル端末やインターネット接続によって発生する問題の対処も頭の痛い所です。ここでは超定番の課題の中から4つを取り上げて、デジタルシティズンシップの第一人者、豊福晋平先生に解説と対応策をお聞きしました。



とよふく しんぺい
豊福 晋平 先生 国際大学 GLOCOM 主幹研究員 / 准教授

専門は学校教育心理学・教育学・学校経営。一貫して教育情報化をテーマとして取り組み、近年は、北欧諸国をモデルとした学習情報環境(1:1/BYOD)の構築とデジタル・シティズンシップ教育の普及に関わる。日本デジタル・シティズンシップ教育研究会 JDICE 共同代表理事、国立教育政策研究所評議員(2022～)。

デジタルシティズンシップとは？

デジタル・シティズンシップは家庭や学校でのデジタル端末の利用普及とともに、1990年代後半から欧米を中心に広まってきた概念です。我が国でも、GIGAスクール構想によって1人1台情報端末の日常的な活用が広まるにつれてその必要性が指摘されるようになりました。欧州評議会の定義によると「デジタル技術の利用を通じて社会に積極的に関与し参加する能力」のことを指します。これは単なるデジタルリテラシーやスキルを超え、オンライン空間における権利と責任を持った市民(シティズン)としての行動を意味しています。

デジタル・シティズンシップ教育では「安全・責任・相互尊重」の原則のもと、オンラインの行動がもたらす影響を理解し、発達段階に応じて責任ある選択と課題解決が出来ることを目指します。扱う領域は幅広く、米国コモンセンス財団による教材の6分類(①セキュリティとプライバシー ②デジタル足跡とアイデンティティ③メディアバランスとウェルビーイング ④対人関係とコミュニケーション ⑤ニュース・メディアリテラシー ⑥ネットいじめ・もめごと・ヘイトスピーチ)がよく用いられます。

機関連誌・教育情報 select

機関連誌や資料の中から、ICTを取り扱った各ナンバーをピックアップしました!



Q

端末を床に落としてしまう子が多く、毎日ハラハラしています。大切に扱う習慣を身につけるには、どのような指導が効果的でしょうか？



まず大切なのは、端末を「大人の道具」「学びのパートナー」として意義づけることです。家庭用のおもちゃとは違い、自分の学びを支える大切な道具であること、大人のふるまいが期待されること、自分の責任で大切に使う必要があることを伝えましょう。その上で、端末が日々の学びに欠かせない存在になるよう、使い方や場面をしっかりと位置づけてください。使わない・なくても困らない道具は軽んじられます。

また、「あかちゃんを抱っこするように持とうね」など、イメージしやすい言葉で丁寧な扱い方を教えると、子どもたちの心に残ります。見本となる私たち大人自身が、片手で扱ったりまとめて渡したりしていないか見直すことも大切です。

最後に、端末の貸与（出会い）を演出・工夫することも効果的です。「GIGA 開き」などとし、校長先生から一人ひとり手渡したり、オリエンテーションで各学年なりの役割や責任を伝えたりするとよいでしょう。



Q

調べ学習などで、ネットの情報やクラスメイトのテキストをコピーして提出する子が目立ちます。対策があれば教えていただきたいです。



まずは「引用部分を明示する」ことや「出典を明記する」ことを習慣づけさせましょう。調べること自体は悪いことではありませんが、検索してそのまま書き写すのはあくまでスタートの段階。そこから一歩踏み出すために、「どこから得た情報か」「その情報は信頼できるか」といった視点を育てたいですね。

また、併せて著作権の考え方も丁寧に伝えましょう。作品には作者の思いがあり、子どもたち自身の表現にも同じように価値があると気づけると、自然と自分の考えや言葉に意識が向きます。

そして、問いかけ方を少し工夫すると、子どもたちの思考はぐんと深まります。「わかりやすく言い換えると？」「〇〇と××の違いは？」「あなたはどうか考える？」——そんな問いを通して、調べたことを整理・比較し、自分の考えとして表現する力を育てていきましょう。



こちらの動画・教材も参考にしてください。

出典：経済産業省「未来の教室」STEAM ライブラリー
<https://www.steam-library.go.jp/content/132>



Q

デジタル環境を使って授業の幅を広げたいと思っているのですが、子どもたちが授業中にゲームをしたり関係ないサイトを見たりすることを考えると、どうしても不安です。



デジタル環境は一人ひとりに合った学びを提供できる一方で、とても魅力的で没入しやすく、特に低中学年では注意がそれやすいという面があることは確かです。これは大人にとっても同じで、日常的に「ついスマホを見てしまう」ことがあるように、私たちはみなデジタル環境との付き合い方を問われる時代を生きています。

実際の指導の工夫としては3つあります。

- ・一斉指導をピンポイントに留め、学習者の作業時間を確保する。チェックポイントを設け、そこまでの工夫や段取りは学習者に任せる
- ・自分で気持ちの切り替えや注意散漫のコントロールをすることを期待し、方法を複数示して任せる（「ピタッと」「のびーっと」「はいおしまい」などのキーワードとアクションを結び付けたもの）
- ・日常生活でもメディアバランスを考え自力で生活を改善できることを教える（詳しくは次のQで！）



Q

家庭に端末を持ち帰らせたところ、夜遅くまで使っているようで、保護者からも心配の声があがっています。ルール作りも難しく、子どもたちの健康や依存傾向が気になります。



端末との付き合い方は、大人にとっても悩ましいものです。決して「我慢できない子ども」の問題ではありません。実際、子どもたちも「ちょっと使いすぎかな」と気づいていることが多いのです。

だからこそ、頭ごなしにルールを押しつけるのではなく、「自分で使い方を考えられるようにする」ことが大切です。「あと何分で終わりにしようか？」と問いかけたり、自分で時間を決めてもらったりすることで、少しずつ自分でコントロールする力が育っていきます。特に低学年では「使う前に時間を宣言する」「終わりの合図を決めておく」といった工夫が効果的です。

また、保護者の方の協力も不可欠です。学びと遊びがつながる今のデジタル環境の中では「端末を開いている時間＝遊び」ではないことを共有し、端末利用をお休みする場面・場所を家族の約束にしてもらうことをおすすめします（食事中は触らない・自室に持ち込まないなど。時間制限は上手いいかないことが多いのです）。

端末との付き合いは一朝一夕では身につけません。簡単には解決できないことを最初から折り込み、生活改善の一環として学校と家庭で支え合いながら、子どもたちの「自分で選ぶ力」を少しずつ育てていけたら素敵ですね。



もっとデジタル化すべき！？

いやいや紙の方が・・・

もちろん二項対立ではありません。

そして、〇〇はデジタルで！××は紙で！というものでもないでしょう。

使いやすい方を使う。子どもたちが使いやすい方を使える環境を整えたい。先生と子どもたちの感覚が違うこともあるでしょう。ただ、技術は確実に進化しており、その結果ゴールに向かって色々なアプローチができるようになって来ていることは間違いありません。

今、コロナ禍とその後の急速なデジタル化が一段落し、ちょっと立ち止まって振り返る時期に来ている気配もあります。確かにとりあえず使ってみて、やっぱりイマイチだったな・・・ということも多かったかもしれません。

こんな時期だからこそ、改めて教育のデジタル化の流れをおさらいし、そして無理のないICT利活用を提案しようと考えました。

本書をチラチラみながら、これは画面の方がよさそうだな、あれは紙の方がいいかも、こういう場面では子どもに選ばせてもいいな・・・。そんな風に少し想像をふくらませてみるのもよいのではないのでしょうか。

編集後記：日本文教出版 ICT 事業部

MEMO

デジタルサポートサイト



日本文教出版

デジタル教科書
サポートサイト

令和5年度版
小学校

令和7年度版
中学校

商品紹介 + 体験版 + 活用事例 + お問い合わせ + サポート情報 +

学びを広げ、 新しい一歩へ。

デジタル教科書の本質は、誰もが学びを広げるために存在します。そのためにも日々多忙な現場の先生方のご負担を減らし、子供たちが楽しく学びを広げるデジタル教科書を日文は提供します。

日文のデジタル教科書について



令和3年度版中学校

デジタル教科書
サポートサイト

デジタル教科書についての各種マニュアルや動画での解説、実践事例の紹介など役立つ情報をデジタル教科書専用のホームページにてご提供し、授業をサポートします。

これからのICT教育を見据えた、新しい鑑賞用ソフトが登場！！



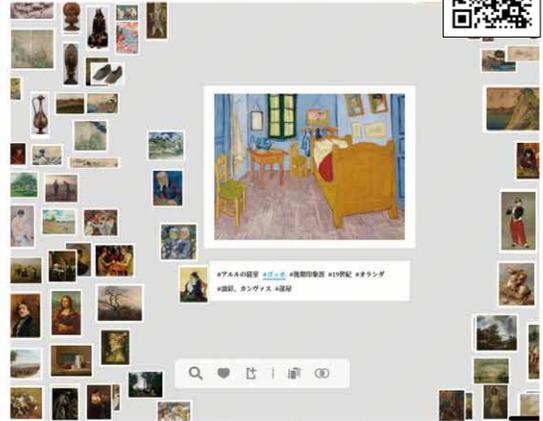
デジタルアートカード

おもな特長

- 1 サムネイルから作品が選べる
「作品ビューア」
- 2 歴史の授業でも使える！！
豊富な収録作品（作品解説付き）
- 3 じっくり鑑賞するための
拡大・比較機能
- 4 手持ち画像を追加登録する
などのカスタマイズが可能

発売中

サムネイルから
気になる作品を
選択できる
「作品ビューア」



イチから分かる！
デジタル教科書 キホンのキ

日文教授用資料
令和7年（2025年）6月1日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261
FAX：06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33773

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261 FAX：06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL：03-3389-4611 FAX：03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL：092-531-7696 FAX：092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL：052-979-7260 FAX：052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-I
TEL：011-764-1201 FAX：011-764-0690